

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

一次骨折予防を目的とした骨粗鬆症リエゾンサービス委員会の取り組みと課題

2. 研究責任者(当院)

所属：看護部

氏名：宮崎 木の実

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：骨粗鬆症リエゾンサービス委員会

代表名：加藤木丈英

3. 分担研究者

所属：なし

氏名：なし

4. 研究対象者

2015年08月01日～2022年03月31日の期間（6年8ヶ月）に、健診センターからの紹介で当院の骨粗鬆症地域連携外来を受診した方。

5. 研究の必要性

骨粗鬆症による骨折を未然に防ぐため、健診センターで潜在的骨粗鬆症患者を発見し、骨粗鬆症地域連携外来およびマネージャー外来で、治療、介入する取り組みを2015年8月より開始した。本外来は2014年12月に発足した多職種による骨粗鬆症リエゾンサービス委員会（以下 OLS 委員会）のメンバーが担当し、骨折予防を主とする骨粗鬆症リエゾンサービス活動（以下 OLS 活動）として取り組んでいる。紹介された患者は本外来で骨粗鬆症か骨量減少か診断され、治療と介入を開始する。

2022年3月までに、骨粗鬆症と診断された患者は70名。委員会で作成したクリニカルパスを活用し、2年間、（希望者は5年間）半年に1回（3年目からは1年に1回）定期的に外来を受診している。採血、腰椎・大腿骨の二重エネルギーX線吸収測定法（以下 DXA）の検査結果をもとに医師の診察を受けた後、理学療法士、放射線技師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、看護師による骨粗鬆症マネージャー外来で、運動指導、服薬指導、転倒予防、栄養指導、生活指導を受け、地域クリニックと連携し治療を継続している。

また、2022年3月31日までに、骨量減少と診断された患者は17名。初回の介入で終了しその後は経過観察として個人の意志に任せている。17名の骨量減少患者のうち、定期的に健診を受けているのは3名。他14名はその後の骨粗鬆症に関する健診歴はなかった。

骨粗鬆症は自覚症状が乏しく病気としての認識が低い疾患である。無症状で経過する骨粗鬆症対して早期に治療開始と継続を支援することは重要である。同様に骨量減少に対して予防行動の継続を支援することも必要であると考え。骨折を未然に防ぐために検討すべき課題である。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の

情報収集のため個人への影響は特に生じません。医学上の貢献として、骨粗鬆症による脆弱性骨折を未然に予防することで、骨折の連鎖をストップし健康寿命の延伸に繋がると考えます。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）

担当者氏名：宮崎 木の実

対応時間：8:30-17:00

※ご注意

対象者とは、個別に同意された方です。お問合せは、同意された方と関係者のみで、その他の方へのご対応はできませんので、予めご了承願います。